

## 連載エッセイ 〈ときどきの老い〉 —— 28

### 久米の仙人と西麻布の仙女たち

久米の仙人って、ご存知ですよね。若い人の為に復習。

これは「今昔物語・巻11」に載っているお話。

昔、大和の国で、久米という青年が仙術を修行していた。彼がマスターした飛行術で空を飛び回っていたとき、吉野川の岸で若い女が洗濯をしており、着物の裾をたくし上げていたので、その白い「ふくらはぎ」が見えてしまう。とたんに彼は神通力を失って地に墜ち、この女を妻にし俗人として暮らしていた。

そして新都造営の人夫となり働くうち、元・仙人ということが判明してしまい、神通力で材木を空から運ぶよう命じられる。久米は7日7夜にわたって食を断って祈念したところ、8日目の朝、にわかに雷鳴降雨があり、大量の材木が南の山から空を飛び都の地に運ばれた。

これにより人々は久米をうやまい、天皇は田30町を与えた。久米はそこに寺を建てた、これが久米寺(奈良県橿原市)である。

以上のように久米寺の縁起を語った説話なのですが、久米の仙人といえば、女性の美脚に迷った、それも人間的でもっともなこと、というふうに伝説の前半だけが有名になりました。

30年前の待合室のこと。80才に近い年齢の男性の患者さん。その眼つきが、目力が、結構強いことは私も感じていましたが。そのときの受付を担当していた女子が「あの患者さんちょっと苦手」と言うのです。訳を訊くと、「ちょっと目つきが現役すぎる。色気満々です」というわけです。でもなにせ80才なんだから、と宥めたことを覚えています。

年齢がいって、得したことの最たるもののがここにあります。遠慮なしに色目を使っても、犯罪的ではない?ことです。

最近では、女性にタイツが流行し、夏でも冬でも美脚が眺められるので、地下鉄車中の私はご満悦、もっぱら久米目線をしています。現代の久米の仙人は、視線を固定せずに鑑賞するコツを覚えて、まるで視線が空を飛び回っているようです。それでいて観るべき対象には焦点がちゃんと合っているのです。ほんとにイヤラシイ!

しかも、手元の本もしっかり読んでいて、なおi-PADで音楽を聴いてい

る私。これに携帯、iーフォンも使いこなす、という私よりずっとナウな老人も多いわけで、現代の仙人から見れば、久米さんなんか、単純で可愛らしい。

色気がなくなったらオシマイ、とはよく言いますが、こういう好色の魂は、若いときは放っておいても過剰だが、老人には男女をとわず、尽きてしまってはいけない、大事な大事な生命力の現われなのでしょう。

医院の駐車場の前は東西に長い一本道の路地ですね。東側は、ずっと遠く六本木ヒルズの通りまで見通せる。

ここを歩いていると、医院の二階のD.O.Zで各種ボディワークを指導している先生方、それに一階のR—D.O.Zで邦楽を教えている先生方とよくスレ違います。どういう基準で選抜したのですか？？とよく訊かれるくらい、まったく美人揃い！！の講師陣でしょう。

《こここのところ、生徒さんが読んでくれたら、講師の先生方に今月号を必ず渡してね！！》

一つ事に精進を重ねている、美しさ若々しさというものは勿論あるんでしょうが、素材がね、もともとがね、違いますもの、隠せないですものそういう美しさ、美貌は！！

でね、こういう先生方が、ヒルズの通りを曲がって、医院の前の路地に入ってきたとたんに、私には判ります。肉眼でははるか遠くて見えないので。なにを感じているのかといえば、それは放射されている、感電するみたいな「気」です。むかし気の達人にみてもらったら、「先生には四畳半程度の大きさの気があります」と言われたことがあったなあ(ーー;)。

それに較べて、講師陣の諸先生=西麻布の仙女たち、の発する気は大きくて華やかで、2～300㍍は楽に届いてしまうということです。だから私はとっくに気付いているのに、相手の先生方は、至近距離になるまで、スレ違うまで、私に気付かない。

久米の仙人は白い美脚に目を吸い寄せられて地に墜ちた。白いフクラハギは上空にまで届く「気」を放射していたのです。

現代の西麻布の住人も、西麻布の仙女たちの発する大きくて華やかな色気に迷って自転車操作を誤り、よく転げ落ちます。

よーし、私も先ほどの受付嬢を困らせた患者さんのように、ぎんぎんの目力でいくで～！！

——以下次号——

## タイチーセンス・59

### 〈29回全日本武術太極拳選手権大会〉

先日、全日本武術太極拳選手権大会が東京体育館で開催されました。

全国の太極拳や中国武術の愛好者が集い、演武を採点形式で競う日本で最も大きく権威ある大会です。今年も東京体育館に1500人以上が集結し、三日間にわたり37種目で日本一が争われました。高齢者や小さな子供でも参加できる種目もあれば、国際大会の日本代表を選ぶ種目もあるバラエティーに富んだ大会です。

特に太極拳種目に関しては46都道府県で予選を通過した選手しか参加できない為、選手権大会となっています。

ちなみに太極拳以外の武術種目は予選が行われていないので、いきなり全国大会に出場出来ます。太極拳以外の中国武術競技は、未だ日本では普及度が低いと言えます。太極拳に関しても種目によっては県の代表者がいなかったり、予選の参加人数が少なく競うことなく代表になる選手もいます。

ですから全日本選手権といつても、必ずしも厳しい予選を勝ち抜いてきた実力者ばかりではなく、思わず苦笑いしてしまうような演武をしてしまう人が紛れ込んでいる場合もあります。

この辺りが武術太極拳競技が五輪競技などのメジャーに成りきれない所以なのか、中国大陸の大らかさなのかはさて置き、他のスポーツの全国大会とは異なる、一種独特の雰囲気のひとつの要因になっているのかも知れません。

良くも悪くも虚実入り混じったこの大会は私の太極拳ライフにとって欠かせないものとなっています。

今年で29回目となるこの大会に私が初めて参加したのは第3回大会です。1回目と2回目の大会を雑誌やビデオで見て「よし!自分も!!」と北海道から参加して以来の付き合いです。当時参加していたのは武術種目の方で、太極拳種目で参加しはじめたのは13回目からだったと思います。

その間、4部門で延べ十数度優勝させて頂き、今年は集団チームで優勝、個人競技では5部門目に挑戦中で準優勝でした。今は自分自身だけではなく、日本代表選手の指導に忙しく、多くの生徒達が全国大会に参加し優勝者も出ています。

今後もずっと関わっていくであろうこの大会が、日本の武術太極拳の更なる普及と発展に貢献してくれる事を願うと同時に、選手のレベルの向上に努めたいと思っています。

—以下次号— 太極拳：奈良英治

